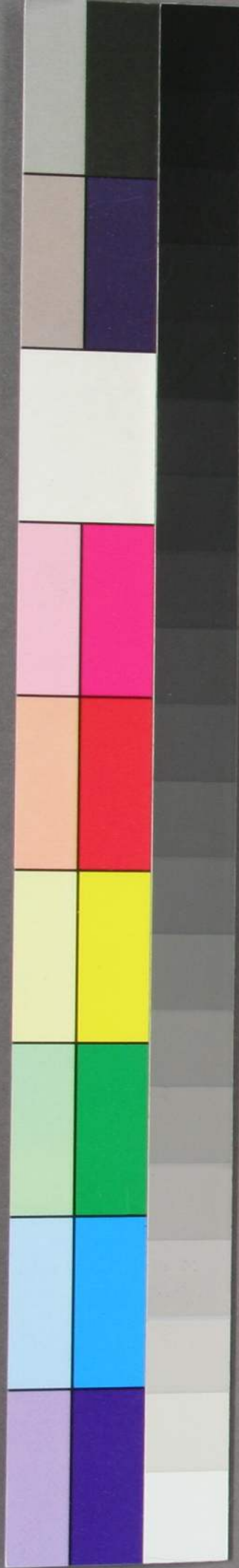


貞暗先生口授
香道十五箇條内辨註

79
1338
9



門 9
1338
卷 9
7 9



十五條内辨祕証

香炉灰調極之半

一は條一卷の始し出有る半の真義

皆先より半起り結半の成りは

ヶ条と以卷以才一は出り半の成りは

言能らふ應はく有る半の成りは

おてはヶ条の灰調極は半日用の成りは

の灰を以て調極は半日用の成りは

とくふし名物部名丸の炉と家一いふあり
俗て名物写しともしく流東清和音洞心の寛
小て焼なりい形紙品音磁る徳のち之音反
ニツ足し言十二寸或合一液二寸二分はす法はて
何く魚らも火食十分調をり是ぞなれり此
如る此の事不端を写し取一なく夫と云露
の鳥炉とても徳と知し唱へ来きく徳るふ
を名は昔ゆく本道巻入道秘蔵ありし

鳥丸の鳥爐ふせく物有し名付は鳥丸
ちしと足赤と有る名は又いふやめらふ
との流ふ流ひふ鳥小能似色ひるとの
く流し且伊勢物流り別ありふ
名りしとはいつとくいん徳鳥
我もふ人のありやれやと
は見え流ありしとむしこの鳥爐なる故に
くし物を書けりも名は昔流る今この對り

かひかみのんせむを石を徳を致すに事成
定表す海之所おれ毎一つの足より小節を
押切て水食別けつ時外二足は自然と違
不南に足より南に足は毎と足は毎と足は毎
ともしふ史より水食押切て水食と表すを致
有収もに回ちて水食と足は毎と足は毎の丸
きと人物の形ちるを先と世界とん均る人
有徳る水食と足は毎のから世に足は毎と足は毎

此物清の舟の世に足は毎と足は毎と足は毎
のせは毎と有と知るへと世界と足は毎
姿也人の足の先と足は毎と足は毎と世界
と足は毎と足は毎と足は毎と足は毎と足は毎
あり火は埋る水食と足は毎と足は毎と足は毎
足は毎と世に足は毎と足は毎と足は毎と足は毎
足の打足なり今水食と足は毎と足は毎と足は毎
田中家の中身なり雲丹片なり水食と足は毎

きん 杉葉味 数種 個合とは法一子 杉葉を
人、不傳 杉葉 灰も是、同くをよぶ川
炭 杉葉 灰乃 曲、杉葉 製の 灰、同く
炭 葉と以て 大合と 謂之 灰と 稱す 杉葉
九合、入は 合と 字、杉葉の 比合、大合、同く
といふも 是、所の 合字、の 杉葉と 称目、を
定、大九合 目入、と、いふ、杉葉、乃 合字、
バツ 目入、の 適合、と、いふ、の 義理、の 同字、を

言、り、杉葉、法、理、時、灰、と、他、平均、一、と、
次、杉葉、の、大小、と、考へ、官、法、的、に、ん、と、いふ
言、ふ、紙、灰、と、一、折、成、す、と、埋、掘、小、火、を、いふ
灰、と、いふ、と、杉葉、の、製、法、より、曲、尺、二、分
高、く、す、と、いふ、と、定、む、に、法、系、と、いふ、一、と、
押、り、く、ん、持、の、數、の、杉葉、を、以、て、火、合、を、い
ふ、中、に、一、紙、灰、は、人、數、よ、ほ、の、杉葉、數、者、ゆ、へ
お、て、ん、と、いふ、中、に、曲、尺、と、對、應、知、と、いふ、合、字、

射の貴殿の今さら出さぬ香煙
名分お重く並く業事の習いに席
此れは居個ふふ二つの好ひ有る余は席
中にて所調ふ事なり人致不意の致
出さず之人の好より下りて時時白く
潤く運ひ白くあといふよと下り流るる
何れにせう方一筋よめ命の別事か
畧して留りて時の會きくは皆同し
あり

業乃のの香煙ふ及純行あり一葉の灰
信あり本香煙よても数程す
と空會釋して畧してす
ん合也何れ初一程の灰
是後家なまのたよりなり
骨骸殿の畧灰の挨拶有る
ふ

此事と罪ありて若くは火とてわが世に
果し人そる利名と結しあひしは
此抄に名ありし火舎の炭並に
此抄の炭の器とてゆへに
自前へてせし小曲の
同列に及ぶ子ありし火舎
火舎有るなりし火舎の
火舎の炭の器とてゆへに

火舎の炭の器とてゆへに
あつて度と早ありし
又徳に火舎の炭の器とて
始に火舎の炭の器とて
定むる火舎の炭の器とて
聖國より火舎の炭の器とて
火舎の炭の器とてゆへに
一名の火舎の炭の器とて

あまのついでに御くつゝの旨をばたまはるまゝ
魚の角と角とももつら押しきり人の御
おろし魚の旨と清くあゆむは紙のよと清く魚
一折居申もつ知あるは魚の御
よ中よ旨も申の折居魚の御
ておろし一は真の扱ひしきり人
てたのよ一は香炉上の扱ひ者
ねと扱ひの人扱ひしきりたのよと

更ておのれは魚の御下よ旨と清く
一は魚の旨も申の折居魚の御
そ人の御旨も申の折居魚の御
よ一は魚の旨も申の折居魚の御
しきり人の御旨も申の折居魚の御
折居魚の旨も申の折居魚の御
おろし魚の旨も申の折居魚の御
の旨も申の折居魚の御

行ふて出なす。は二阪も人の邊限。
よらあり。萬事一丁寧のつらひぬ。
能れんか。

礼箱同飾を志望折記依格飾本

一は礼箱とりふおえ箱の掛子ら大内もき。
こまはきふゆくまの自あははるまのこ。
有ま。む。よう。お乃お内か。この箱。

源清小文出るまのきあり。武家とて。廣物。
こまは始は箱のあ。成。今とら。
好。徳の玉て大なるも有。少。貴。兄。の。徳。蓋。
こまは。次。箱。の。事。こま。用。ひ。ら。内。み。
多。う。の。櫻。の。物。と。定。ま。入。り。の。箱。二。回。
大内。の。字。が。し。り。の。毎。方。よ。何。れ。と。め。
不。苦。れ。礼。の。物。と。入。り。定。ま。て。こ。ま。の。箱。
こま。一。次。大内。箱。の。友。女。下。の。箱。と。入。て。

休むより不礼儀の縁でしてしる事あるは
よの夜にせしむる形は味をへし東山公の
如くして是の由を納くは扱きせり
今我を時の安と云はれし掛子ゆへを者
然ししむる式の礼教の内と錦の織物と
以てはうらむと云ふは其の杯語てしる
時法付して掃除出するは月て之は
右形の前後好むやふし其のな形す

蜀山のしるの姿と換ししるをのな
右内法のしるして前後しては申しお
るししるして掃除の時を易し
四季むるしるしるは又百ふる
竹前後未だしるは法切の
しるしるして是の形の前後す
木の枝しるしるは法切の
角形なるしるしては甲の中は十二

とゆふこの紋有夫乃古八者に配面す。
也併をよのの中々容易調のくをせま
く首黒して套又とん度未出らゆに
きと用ゆる事やいあましくと事なる
寸法大ふ二極法方を卯の寸法如内等
しうふち中り札紙と魚是ともり別を
向ふも野折とあつとぬ二も野折と
れをこのろぬとと方此系入たの方折居

又札紙とぬ紙とのろぬとた方道直建
たの紙の入と直へ一と平白のむらうし
敷紙のの時のをぬ紙を法系入の度
出—このを法系一紙系入ぬ—このを
短の入の用は時のあぬと入出さ
ぶ及是とも除折居とはた下折居
の度、紙方紙ぬも野折入がら—又
二紙とも紙紙ともあつと折居と訂て野

袋とれ箱よなすくて室へ一札取用ゆり
めらる野袋と打巻の同札箱よなすくて
割付皆わくのしし余是は紙と床鳴り
のしるは札箱の中仕出人科紙は神えま
場とあつて火ぬ魚の炉火の着地お定
法にまゆ遠擲金たな皆は必持くお教多
き時におりおきり又の餅者物へ返すお傳
方へ一は志野折りしるまの黒擲の附る包

の折箱ありたうとえ紙宗法金花鳥にして
用いしよくは紙あり折箱を紙袋
より有しまのこ紙指しるまの志野折
日極の紙の方紙中へ射の地の様よらおる
人有るめ代達しる也昔は紙指ししる
よのなし紙紙の短尺一枚宛用いしる
あてしる折人数かこまの紙と紙
ありたりに短丈紙の字衛く又字少の

そのも有丸ノ殺流いりりさるふ有
少くは切て堅ニツ折上る方と角違
ヤーヤーけ毎家子し墨のこり
表をくくのあし人殺程をく又鎮
と申也能事とも短尺三ツ切拵好より
いとも紙のあなまの雲紙をく尺三ツ
切の明事書は家雲白紙をく一丁拵倍
云逆巻枚角と十八切て堅也の折てを

折しけ無事とあまてし是の又結を
持くくはく後西流品を以今の紙
持とを紙中し是の人殺流身折余
さして無事なる強折を時折が又つ
めりなるし中なる有め乃月を紙
乃流流折を時折の有め乃月の紙あり
紙紙の一紙名紙紙しふ何くき
我名を名系くはの名系をすく出て人

好く明の月の姿事成とくふ心有明の
月の明くえらこの縁終なり枕りと志路
折と一封くらわりの事得て年間と備
り事百七十余年こららふ心成り
物の上定座へ又小人教りて此節の
由入り事何事とも大畏しあるは
成の時物の上の事成り有明ふまへ
とく成りて心成り終りて終りて成

徳と徳と用中りし大く入る小成り
源氏兵の終り

地衣紙錯并事の事

一は地衣紙くふ物首の事
とて毎々小成りて終りて成り
合曲合徳の事
は事成りて地衣紙を執り有り也
南家にも物成りて終りて成り

感心甚だしく然るも執作の極細色を以て人の
之のこゝろを色木板に施すにうましく
彩多し混りて分りなく其法を以て
濃く濃く重なり再三の上今の沈法に極細
道と所見を以て其法を以て定む
まゝ其法を以て南流つ人中に執作と
爲りし半は此法に紙打目のまじり
とみえり其法を以て自注とす其法の
叶

い未嘗て此の法に執作も其法に依る地
段紙地流ふかき大層の紙板とす其法
て用ゆる之有るは其法に依るも其法
海原の地を紙に表令の法に極細の竹梅
花の飛散の陽を以て其法に依るも其法
法に依るも其法の法に依るも其法に
半あり其法を以て用ゆるも其法に依るも
場は後作の法に依るも其法に依るも其法

の物取火より魚鱈は極くよめて火を
下に敷く定座す地敷紙からうき
皆魚のさしなまよは紙のり
一に地敷紙出外法魚の文字は皆のこ
業のり大回小戻りて魚紙より及
いとも所を越え知しむる人魚紙
潤る半紙よりかへて戻出朱の上丸紙
取付火さきとはして赤紙盤蓋と

きり付次は志の折扱ひたのあがり併
考考の出魚にかへて考考業より紙
あがり一を朱を折紙と赤紙あせ
た昔の建と赤紙出せり一は小魚出
来しと赤紙に留まりるしと建は紙
決と赤紙より一を朱を折紙と赤紙
不及赤紙の一夜決り下は魚紙の
きり考出りる火より一建と紙

引あり、其餘皆くあり、其類終る終る
仕込法盤巻と引試包と仕込乱巻と引
巻と出し道巻と立終る終るたのち
よす一札しと持する乱巻のお包り
巻紙付るを余遠くは是古式今も
停止ありしよあらずと云えん心持次方とて
業有へし又ある人より切者、取定する
事此有へし一巻の巻る時の志野打大御

度前段しつゝふと又よらし尺は古家へ
主人好し流るる御し

記録徳和并記紙徳やうの事
一丈は記録科紙よさゆく有流巻も
巻紙も紙の法會紙友とと輝く除く
も余も紙枚承の紙好し流るるし書
しるるは紙種よしと取て枚承し留る

一設小柳地書教多の中小鳥虫杯の御
やうな高教の文字の
一は一紙に記して
又字を按と前設の字も可字と将字を
神競の字馬らふへの字も有るを念と合
ふ家とむつふ進音會ふに好て下字と黄
疑も十種色に忠色に記を来を以明知有
御了又十種色の名と皆々三葉一死冬
九思一言又十葉志に短杯と進牌

よ限らし又字乃大小方一六太短号城大字
お徳身二月日方三札流方尺点教方六出
鳥名衆方六色互是ハ忠銘道の文字と
ソふ方七流々の名衆方八色流方九本虫
并右字の文字こそせ九流の虫法とソふは持
てお徳の肘自然と徳西よりし九流あり地ハ
は教とハ作異有へし月日終りの徳身年
お徳し月日ありし出番名衆一行り出下し

この徳出書一 手抄本有る中 及び有る数
未練のくちり 徳じへ

札紙組合 并 名字調換 年一
一は札紙組合と年一才一萬の札紙南季
の物と出へ 夫が人数と出へ 月福一位の
徳合終りの札紙より 徳字有之の字者好

よるへ 徳六十一種 名字の物に 夫がた
わ花梅 葛南青梅 白梅 臘毒花梅 立花
枯木蘭子 字梅 二葉 赤梅 紅梅 等を 意へ
一昔の 名字の物に 徳字有之 札紙
り 夫の 字を 来答 是と 牌を 一 字 札紙 小
取 与 多し 紙短 尺 徳字 時 本 中 年 日 の 札
徳字 中 あり 多人 教 の 記録 紙 を 残 ても
徳む へ 一 考 人 連 徒 の 時 札 紙 上 へ 徳

半有二字より一字より亦有を折る意
てら有下一殺然老松異竹玉栴の類
知無一名字ハ実名之れ知と法と折入と
徳比其人ハ一字より二字有下一夫神ハ字
よりよりより婦人の名何氏女又ハ何子と
徳より忠道とをいふ一何子の位階有命
なり又婦人の名又字あり又ハ方葉の
ありては半一苗縁はあり夫は年加なると

如と知よりあると徳比一文字より半
一字名は漢より分りあり一

香比ハ法希忠詔潤極年一
一香比ハある人の字の旨意よりして地徳
今神の地法一と古香二と新法三と神意
と名あり比より古式なり其母も其母
より下ハ身は成あり忠の人好の意一

いふく蜜化有るより一和香本も法分紙
入魚一巻も古式ハ之の巻は紙二侍侍の起
兼物造の巻ら之七物一一の家来な事
とも母も和木の三々心得りや一一成り
不真あるは又出魚の可等といふく越向
有つ一和木は一とて和物汁紙合とて
も有つ真か一一切形ハ一分尺方厚さ五寸
之をよて十人ゆきと也一人敷の多少とて

らゆ有つ一木も之扱ふ紙の巻とて深さ
たふく物造とも紙巻の者皮の守有る
てふ浄之よけて百草を和借りふ三巻焼
也一水とて解て深魚魚包紙ハ生濃香
子十八切下ア用是曲尺は寸一分中二寸
七分又四寸二分の二寸八分も紙の巻
印の寸法今書用之昔ハ十紙は折形定り
何と南時十紙包ハ入有分ハ紙の事ハ

つては正流の香と云ふ流は合さく流
半おまじとも云ふ流山より持たけり
の合せぬかこゝに流し然香いよを流
ふ昔南季子の流とい流流と更く合と
能く流しよの南季子の中間は流流更
と氣流として流ふ又折紙と云ふは
象地流流也生流所無賦と流二種と
得有半と云ふ中間は外流也と流折

越よかふに流の何流も云ふ昔一
折紙也と云ふ流は流の流又の流
流を流へて合と云ふ一種と云ふは流
の流と更るゆかゝる南季子一折と更
流の流の流流の流の流短尺およ
し流の流の流の流の流の流あり
短尺の三つ折て上の折目よ流と流
文字おまじも字の流の流の流の流

目よよ字掛て魚立と記しき下ハ魚立と
酒むとの句の二行よ二種下の句の五よ二
種と下よ名余と酒と魚立と大種の物名と
よ同一の種の時と下二種完までと下
の中よ名余と酒と魚立と明と魚立
紙二ツ折て包上出何と魚立と下よ実
名と酒と魚立の中の人懐中を畧紙の時
出さのら持た才中切紙折しとよの二す容

斗は切換紙とてこの方一二三ウと
魚立と名余と酒と魚立と明と魚立と
ハハ魚立と下ハ魚立と名余と魚立と出
魚の又字と名余と酒と魚立と明と魚立と下
よ名余と酒と魚立と明と魚立と
魚立と名余と酒と魚立と明と魚立と

魚立と名余と酒と魚立と明と魚立と
魚立と名余と酒と魚立と明と魚立と

長法一切結成り年

一長法といふは十種ある袋の紐を志
所袋のむすひ形なり。魚卵袋等一技成
およばる申四季毎申の三ツ長法之記む
すいとつふは正月梅二月桃節法梅二月友
四月葵又月葛蒲六月蓮七月釣魚等
法桐八月桔梗九月菊十月松葉十一月あ
仙十二月もろ無二ツ對節法いふは二ツ長

法と千利休の片作りといふ又一ツ作り
いふは有建候のふ入桐袋の紐の二ツ長法
と知候しは卯の長紐又掛法といふ物も
有所謂露尾松海老も葉二ツ宛有
こまの袋の口結するはちり別をい候あり
十組會より節知り年之たに卯を束さぬ
の紐のあまじりも皆新作りして古代が
有来りまのし何れす依て尚流る不用あり

小いほうちみおの古代の物おく混雑有る
おの業半るお及る後果る

音席掛物并生死と夏

一席中のひさし掛物と以身一と云二幅射
へ幅射を卯日幅二幅お右併是と書院
かきくの事おくお席の中へ何ふは
席二幅より半足るも席の趣意乃

半と以合神さうやうい坊海に地とよ
縁有るとよと申ゆりゆり人のいささし
掛物と総てとて席の趣意と離れく
ちふ事と極くは依とて席には多分
も跡宗伝の像と掛るも及の社師を
いふ細ちるふと併是人拒清おは位階
何うて得る事とも有るは能く勘考
有るやうく生死の事ハ全神飾よお魂の

半と嫌ふお生と力一とてんゆの花ハ
あまの物とてあまの火とてお扱ふ具こそ
水冠とて成て不返名併お扱ふ玉とて花
お右のあまの遠擲しつと床とて花
生魚とてまゝとて白のうらゝ花とていそ席
とて具とてあまの次のおつと床とて白の
のうらゝとてあまのうらゝとて又掛花とて
事とて名物とてあまの持たふ人お扱ふ

打おとす有るお扱ふと利休様との切との
花とて掛とてあまの例とてあまの今者掛とて
とてあまのあまの事とてあまのと持とて
漳りなまのあまの掛とてあまの何とて
抛入し花とて法とてあまの無併法花湯花
いそとてあまのあまのあまの花とて丁の物
系とてあまのあまの半とてあまのあまの
のと嫌ふお扱ふとてあまのあまのあまの

くはば知のふてりふく舎とつふをる魚目か
く合せ果地、竹集舎、くふ事、在
時別あされ又ハ火舎法よる時を幾張紙
者ハ合せ紙魚、又火紙生指てもゆり下
火二度目よりハ上あらんぬく灰の男夜
ゆり小換抄有ハ、香えんゆり中紙魚
斗、く魚、ハ、心、く、た、ま、方、の、紙、魚、ゆり
才、二、く、あ、く、あ、る、ハ、持、束、の、心、と、知、り

あも紙魚又紙魚と申言有ふよく尤志野
袋は入て中を定あふハ、き、ゆ、の、間、の、紙、魚、入、
ハ、又、札、を、取、お、て、目、合、と、あ、す、ハ、心、あ、ら、
何、ハ、心、取、お、も、す、ハ、是、ハ、花、席、の、紙、魚、
ハ、あ、ら、ハ、ハ、初、め、ハ、紙、魚、の、物、集、あ、ら、ハ、心、
者、運、い、よ、せ、あ、ら、ハ、心、ま、ハ、心、く、ハ、心、あ、ら、
ハ、連、中、あ、合、い、あ、ら、ハ、心、あ、ら、ハ、心、あ、ら、
先、之、あ、出、魚、の、持、抄、何、く、ハ、心、あ、ら、ハ、心、あ、ら、

毎一紙終りて大合より一紙とて
すの紙の中より一紙より今一紙の紙を
短へ一紙方より自然用紙おあり今
日は限らず申すてたなくと扱扱を
多分又ある紙とすべく短半なり是と
あるの心持と知るべし記録の二枚を
筆者持来有べし例にせり今と上を
送り付括く扱人者へ一言忌成し

与人分く紙一

會日並物并刻限と事

一會と候えんと思つる前日出會と
有る何月何日以誰と申入一紙
等して是比是支取余々を
本日以前に成り弥何日
候るは此紙と申入る

ら連沼と又又切紙とては白とへりき
俄用半の何ふのき趣と中折と出へり用中
漸次次第と振とりふりまを禮之第一用
半おく海とふり外用漸次存かたり并
又記録おえり為来しと公入海し出席
の人と魚物刻限は時あふりへりき
いふふたれありて人む時と又あり出席
の挨拶有海し例のあまを以て定むり

居坐乃業内河のむきゆとありて
入海し座のきり座飾お出席と印
と人業物ふり會釋して人々むのけ物
一次座の圓のきりて人へり次り遠相
次り重振あり座のきりの魚之間中とあり
と記しと像おふり一礼して人々へり細
字のきりておとりて時ハ膳のりて
程よりおまへりておとりて生花のあり

と見えへ一ひさうにふと然る事いひお
非礼と見物終るに付まてお色の移抄あふ
何

初い十六の条は夜半

一是十六の條の法度乃書付お祓有と異
しはふと終る處くは亦も數多の掟
せしむまら初門入申と申と十六の條書
集ふるといふ免角擲る成屋すく礼を

の法よ何す身と情と方一とさの
道此れの中何さうふす能く修練有へ
一法度あたのおと

香席法度書

一此書と礼家と以て方一とす、おれは
席上尾籠と振舞有ま、いむお席
と書とて人輩、一礼有とて座のうへ

尺物可有以半

一香席出坐高草席有海くくは衣服

小草ふいふすくくは又衣袈裟掛画い

くく或は草ふく高尺草燈未燈中有

くくす半

一糸席時刻お遠有る敷い道糸いん

お葉衣礼おく又出席もあし糸と以上

とすくく然もも人高尺去掛割の

沙法者多魚尺半

一席中今中く難紙有魚くくは松抄

く外無云くくく一花辞正會紙志

上尺く及び外分彼小尺指墨時くく

半好く有魚くくく何半も序よ

明くくす

一此の糸會くす印我念く振舞有く

らす其流系の作法と合せ神妙糸結

しむを祝ひに傳のまゝに他は有る教
の事

一 此の書に師たるも此の席を教へ
又とん汗いひ事有るも其の非は障
子立時希立后云諸物よりいよ有る事
一 此の席安能定法といふも其人沙連
元成志貴殿之人 此の事も師を指別
る事

一 此の書に昔思本所火合に強弱席と
あるは所法有るに其の速六國がし尋い
事次る事

一 聞此の長短を申す事其の外の有る
事又申易しく申す事是又其の事
一 此の中紙葉をとり又此の席に射水
の事一有る事
一 此の席に取戻す事或は折

后乞角一札抄智记纸書也一亦未
殊至極之也

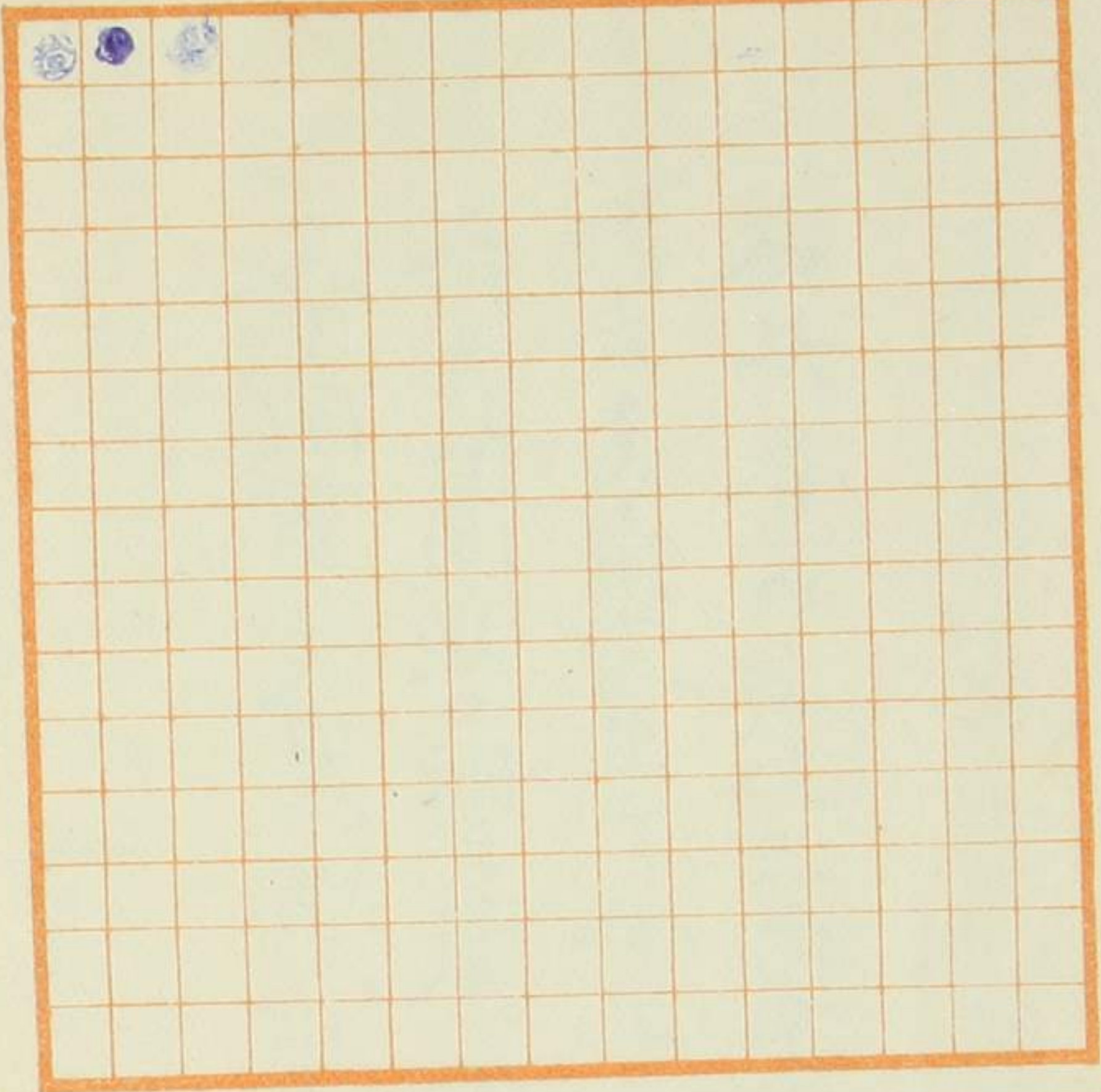
一記録抄徳の意に掛り人地有海より
と進ら記録進りて意に能合点路亦
之客ら均會釋有下下衣上座之役
予ら海江事

一記録録及之音記之同也人一と云
以大合能方本所一筆公彼是沙法

又ハ徳さく河さく事さくも卑下力一
と事

一書會容意之抄料理下文事之類
白の字及之の用中海事す其前記禁
酒心之也
一書具之也
一書事一獨者小及之目之苦教に身分相
意小之集事也其風情之具也可

4年5月



有以事

友止洛之蒂得

衣先年命之青

模之一再雖有所持

別騰年馬

寺月將

有以事

右此昏者弘化三丙午夏上洛之書得
降吾真晴先生之昏字之尤先年命之書
得古田則默之雨之遺昏模之一冊雖有所持
文中間有少異故今別騰字焉

有真之書 月將

